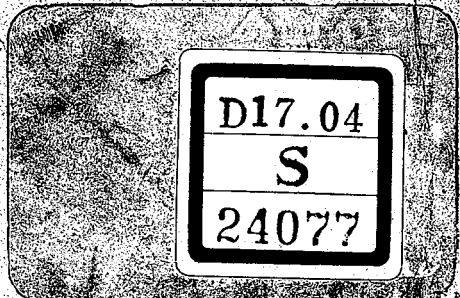
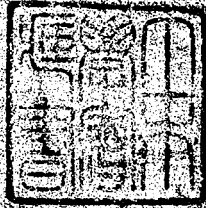


隄防溝洫志

佐藤信有著



登錄昭和三年八月二日
番 和 特 許 第 一 〇 七 〇 号
社 團 法 人 上 木 子 会

カード製本

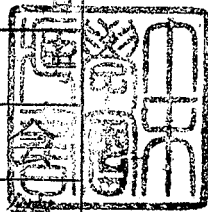
佐藤玄明窩翁著

隈防漢酒志

明治九年丙子

十月新雕

名山閣發售



堤防溝洫誌序 

治水ノ國土ニ利害アルヤ大ナリ瘡ニ
物産ノ盛衰運輸ノ便否ノミナラス實
ニ民命ノ安危ニ關ス是堤防溝洫ノ術
講セスンハアルヘカラサル所以也余
試ニ東京ヲ舉テ之ヲ例セシソレ都下
百万ノ生靈頼テ以テ其生ヲ聊スル所
ノモノハ多摩川一脈ノ水是也而シテ

堤防溝洫誌

卷之一

此水ヲシテ暴漲枯渴ノ災ナク日夜混々
トシテ毎戸ニ普及シ永ク常度ヲ失ハシ
メサルモノハ何ソヤ是水理ノ術其宜
キヲ得タルノ致ス所ニ因ル而已余又
客歲植物調査ノ命ヲ奉シテ武甲相ノ
地方ヲ回歴シ路次所謂多摩川ノ上流
ニ沿ヒ来ル果シテ沿道ノ民皆此水理
ニ頼テ其物ヲ産シ業ヲ營ムヲ知レリ

既ニシテ拜島ニ到リテ之ヲ視ルニ此
間若シ水勢暴漲スル片ハ直流ヲ六郷
川ニ決放シ以テ海ニ趣カシメ一丈ノ
平流ハ滾々トシテ常度ヲ失ハス東京ヲ
濡澤シテ海ニ入レリ余是ニ於テヤ益
古人ノ水理ニ於ル其深慮遠猷能ク後
人ノ輕シク企及スヘキ所ニアラサル
ヲ嘆セリ是蓋シ佐藤元庵翁ノ偉算ニ

出ツト云フ余夙ニ翁家歷代ノ農學ヲ
欣慕シ普ク其書ヲ蒐集スル久シ皆經
濟必用ノ著作ニシテ多年ノ實驗ヲ經
タルモノニ係ル此書亦其一ナリ噫都
下ニ在ルモノ宜ク多摩川ノ利ヲ知ルヘ
シ多摩川ノ利ヲ知ルモノ豈ニ其惠ヲ
昭シタル人ヲ思ハサルヘケンヤ既ニ
其利ヲ知ンヤ多摩川一脈ノ水以テ天

下治水ノ利害ヲ推察スヘシ既ニ其惠ミ
ヲ貽シタル人ヲ思ハンヤ多摩川ノ遠
算以テ此書ノ果シテ有用實益タルヲ
證スルニ足ル書肆名山閣牧野吉兵衛
佐藤翁ノ農書ヲ悦ヒ草木六部耕種法
ヲ刊シ今又此書ヲ刻シ尋テ山相秘錄
種樹園法等ノ各書ニ及ハントス余深
ク其志ヲ嘉シ因テ為メニ一言ヲ撰ス

ト云フ

明治九年三月

鷹洲織田完之



附言

一佐藤信有先生高著、隄防溝洫志四卷、寫本ヲ以テ世ニ行ル久シ、然レモ坊間流布スル所ノ者、或ハ闕本、或ハ重複、加之傳寫謬脱、且、圖牒ノ如キ錯亂曖昧、往々讀ム可フズ、亦解ス可ラズ、其善本ナル者殆ト稀也、弊屢舊臘掃塵ノ際、偶マ一本ヲ庫隅ニ得タリ、全備精詳、畫圖明覈、讀者ヲメ、隔靴ノ憾莫ラシム、而メ該本何ノ時何ノ人ヨリ、購求シ得タルヲ知ズト雖モ、方今國家農事ニ急ナリ、水理ノ學以テ講明セズンバ

隄防溝洫志

附言

有ル可ラズ、因テ這回訂正ヲ柳條宮寄先生ニ乞ヒ、新ニ梓行スルト云、

明治九年十月

名山閣主人誌